

## ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

- 1 東広島シュタイナーこども園さくら
- 2 今年度の活動事例

### 【事例：歩き遠足】

日時：平成29年11月2日（金）8：15～15：00

（順延日：11月6日（月））

場所：こども園さくら（東広島市八本松町篠）～

なみ滝藤原園（東広島市志和町志和東）約6km

目的：秋の自然を感じながら、遠路を自分の足で歩ききることで、心身の成長を促す。

出席人数：園児16名（年少5名 年中5名 年長6名）

引率者：4名（園長、保育士3名）

そのうち1名は車で移動（物品運び、緊急時に備えて）

事前準備：道順確認、現地見

安全性（熊、マダニ、かぶれる木、ぬかるみ、交通量等）・藤原園内の様子（トイレ確認、遊ぶ場所、お弁当場所の候補地、見るポイント、注意箇所等）

準備物：ビニールシート、ごさ、着替え、トイレットペーパー、ティッシュボックス、やかん、ココア、きび砂糖、予備用お茶、スプーン、コップ、ナイフ、ビニール袋、タオル、救急具、マッチ、トング、軍手、カメラ、虫よけスプレー、消火用バケツ、網、緊急連絡網用紙、携帯電話（各自）等

園児持参物：リュック、お弁当、水筒、ハンカチ、小銭入れ（団体入園料100円）

園児服装：長袖（体温調節しやすい服装）、長ズボン、長い靴下（マダニ等に気をつけるため、肌の露出を避ける）、履きなれた靴、帽子



### 〈当日の様子〉

遠足への導入として、通常保育のなかで少し遠路のお散歩や森歩き等を通して、基礎体力や森での身体感覚を少しずつ養っていきました。そして、いよいよ待ちに待った遠足。年長、年中さんは、「一本橋があったよねー」「ココアが美味しいんよね」と去年の楽しい記憶を蘇らせつつ、期待を高めていました。また、それを聞く年少さんも、初めての遠足に少しドキドキしながらも、イメージを膨らませて、楽しみに当日を迎えているようでした。

各自自分のお弁当をリュックに入れて園を出発し、山道を通して「藤原園」という野外体験場に歩いていきます。山道は、紅葉した木々が美しく、ドングリや栗のイガを見つけたり、落ち葉の海を歩いたり、楽しいことがいっぱい。途中には、湧水が流れていて、その冷たさにびっくりしたり、どこにつながっているんだろうと辿って歩いてみたりと、みんな興味津々でした。湧水が多いところでは、濡れないように長い一本橋を渡る場所があり、一人ずつ

ハラハラしながら一步一步、進んでいきます。年長さんの様子をじっと観察し、年少さんも恐る恐る足を踏み出します。体全体でバランスをとりながら、慎重にまた勇気をもって、難しいことに挑戦していく力を養っていきます。



〈山の水は冷たいね！〉



〈ドキドキの一本橋渡り〉

約2時間かけて歩き、やっとの思いで藤原園に到着です。そして、まずはお弁当をいただき、エネルギー補給をします。お母さんが作ってくれた味をかみしめ、ほっと一息をつきます。食べ終わると、藤原園内を散策します。湖で泳いでいるカモを見に行ったり、木に登ったり、森の広場を探検したりとまだまだ元気な子ども達です。そして、次に園内の枯れ枝や落ち葉を集めて、火を焚きます。自然物を利用して、火を焚く体験を行うなかで、火の扱い方や火の大事さを体で学んでほしいと思っているからです。



〈枯れ枝をたくさん集めよう〉



〈熱いお湯を沸かそう！〉

拾ってきた小枝を組んで落ち葉に火をつけると煙が上がります。「火を大きくしよう！」竹で息を吹きかけたり、新聞紙であおいだり、どこに風を送るとよいか体験として学んでいきます。「火が弱まったよー。もっと木を入れよう！」「その葉っぱ、湿ってたらだめだよー、火が弱まるじゃん」など子ども達同士で声を掛け合いながら、協力して火を焚いて

いきました。お湯が沸いたら、待望のココアタイム。「あったまるー」「外で飲むと気持ちいいね」みんなで炒れたココアの味は、格別でした。



〈ココアの準備は任せて！〉



〈この一杯が思い出の味になります〉

帰り道では、帰路に就く安堵も伴い、リラックスした雰囲気、わいわいとおしゃべりを楽しみながら帰りました。お土産に好きなものを拾い、「木の枝の角だよー」「葉っぱのお化けになったぞー」と、落ち葉や木の実を身に着けながら帰りました。少し内気なお友達も、お友達と一緒にユニークな葉っぱの仮装を楽しみ、開放感のある自然の力を感じました。みんな自分の足で歩ききったという自信をつけ、意気揚々とお迎えのお母さんのもとに帰りました。お迎えのお母さん方も、ほっとしたお顔。年少さんが歩ききった頑張りに涙するお母さん、年長さんの得意げな報告に嬉しそうに耳を傾けるお母さん、それぞれに我が子の頑張りを受け止めていらっしやいました。「全部自分で歩けたよー」「お弁当美味しかった！」「湖にカモの親子がおったんよ」口々に語る様子から、この歩き遠足を通して、子どもたちが身も心も満たされているのを感じました。



〈これ見てー！おもしろい枝見つけたよ〉



〈こんな顔になっちゃった！〉



## 〈所感〉

今回の歩き遠足を通して、一本橋などの通りにくい場所も含めて、子どもたち一人ひとりが自分の足で歩ききることができたことは、園児の自信になったことと思います。通りにくい場所では、状況を観察し、どのように足を運んだらよいか、どこを持ちながら歩いたらよいかを考えて体を動かすという思考力と身体力の総合的な力が育まれたように思います。



また、火を扱う体験では、煙の様子や匂い、火の傍の熱などを感じながら、火をどのようにして焚き、どのように後処理をするのかを学ぶことができたことと思います。

そして、紅葉した木々の美しさにはっとしたり、落ち葉や枯れ枝を使っての自由な表現を楽しんだり、園児の感性も大いに刺激されたように思います。

## 〈課題〉

森歩きをするなかで、木、ツル、草、虫などの自然物に対する先生の知識がまだまだ未熟であると感じました。今後、先生自身の実体験を積み、インタープリター等からの学びを深めていきたいと思っています。